

一家數九拾八軒、人數男二百四十二人、女二百卅一人、牛なし、外に貳軒流人男二人、

寺貳ヶ所甲州下田本覺寺、末法花宗長久寺、甲州身延山久遠寺、末同宗海岸寺、

一御年貢金拾八兩三分永五十五文宛年々定納仕候

一爲御救米、一ヶ年拾石一斗一升宛被下置候、

一御圍米無御座候

一此島田方畑方少々宛有之、麥、粟、稗、大豆、小麥、芋、大根、菜、其外胡麻、芥子、多葉粉等作り申候、

一麻少々宛作り申候

一此島水不自由にて、纔之清水二ヶ所所有之候得共、引足り不申候に付、雨降候節は辻々溜置天氷を遣ひ申候、

一此國稼には、男は畑作之間は薪を伐、江戸へ積出し、夏は鰹を釣、渡世仕、女は蠶を飼、其外芋野老草木の葉取、渡世仕候、

一廻船二艘、漁船四艘御座候、

一流人渡世之儀は、親類見繼無之者は、百姓之手傳致、渡世仕候○中略

寶曆三年酉十二月

〔伊豆海島風土記〕新島は、伊豆國加茂郡下田湊より午の方にあたり、海上十三里、江戸よりは午未の間に當り、海上五十一里程あり、島の廻り砂濱多き故、海靜なる日は船を浮むる事安く、順風には伊豆相模の浦々へ一日のうちに渡り、江戸へも常に行かよふ、島の地程は東西へ一里、南北へは三里程をへだてたる島なり、四季の時候暑寒とも、伊豆の國にかはりたる事なし、

〔伊豆七島調書〕新島東三十三町程、北三三三程、南三三三程、西三三三程、江戸より海上

一家數三百七拾二軒、人數男四百七十五人、女四百三十八人、外に流人男四十八人、女壹人、牛三十疋、